プロの技でレベルアップ
お手軽コンパクトデジカメ術

春です。コンパクトデジタルカメラを手に、出かけてみませんか。手ぶれ補正、夜景モード、顔認識…。デジカメはどんどん便利になります。とはいっても、カメラまかせではつまりません。プロが使う技をちょっぴり取り入れてみませんか。東京・練馬区の依田真純さん(28)、大輝くん(5)といっしょに公園で撮ってみると―。

野間あきら記者　加来　恵子記者

逆光で撮ろう

5

白い紙、銀紙で

逆光で撮るときは、顔の近くに大きくて白い紙（たとえばカレンダーの裏など）を置く方法もあります。（写真❻）

紙の角度をあれこれ変えて顔全体に光があたる角度を探します。目の中にも白く輝くキャッチライトが入ります。

フラッシュよりもやわらかい光で撮れるので、ぜひ挑戦してみてください。画用紙や白いハンカチ、アルミ箔（はく）を使っても効果があります。（写真❻）

6

依田真純さんと大輝くん

昼もフラッシュ

顔に直射日光があたる状態（順光）で撮ると鼻の下やあごに、強い陰ができてしまいます（写真❶）。まぶしくて目が細くなってしまうことも。

被写体になる人が太陽を背にする、逆光状態で撮ってみましょう。いつもの撮り方と逆ですね。

逆光で写真を撮ると顔が暗く写ってしまいます。そこで、カメラのフラッシュ（ストロボ）を「強制発光モード」にします。シャッターを押せば必ずフラッシュが光ります。

フラッシュを使うことで顔に十分な光があたり、いきいきした表情が引き出せます。背景の光も強調され、人物を立体的に描写することができます。（写真❷）

1

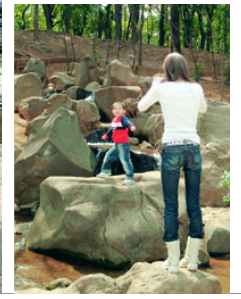
タテにも挑戦

7

いつもヨコ位置（横長）の写真ばかり撮っていませんか？真純さんも「タテの写真はほとんど撮りません」。

左右の広がりを表現するにはヨコ位置がいいでしょう。しかし、人の立ち姿は縦長、顔もやや縦長です。カメラを90度回転させてみましょう。真純さんもさっそく、タテ位置で大輝くんを撮ってみました（写真❼）。左右のムダをなくし、水の流れを表現できています。

タテ位置では、フラッシュがレンズより下にこないように構えてください。フラッシュがレンズより下にあると、不自然な影ができてしまいます。タテ位置はカメラが傾きやすいので、垂直を意識してしっかり構えましょう。



走る子どもを

8

コンパクトカメラでは、シャッターボタンを押した瞬間に写真が撮れるわけではありません。ピントが合うようにレンズが動いてからシャッターが切れるので、時間のズレ（タイムラグ）が生じるのです。

動いているものを撮りたいのにシャッターチャンスを逃がしてしまうのは、このため。

大輝くんに、カメラを構えている真純さんの周りを走ってもらいました。真純さんは、カメラ背面の液晶モニターに大輝くんがしっかり入っていることを確認しながらシャッターを切りました。みごとに成功！（写真❽）

シャッターボタンを半押しにして、あらかじめピントを決めておいてからシャッターを切ると、時間のずれを短くすることができます。

人物も風景も

4

3

きれいな景色の中で記念写真を撮る。しかし風景を入れることに心が奪われ、人物が小さくなりがちです。（写真❸）

それもひとつの表現ですが、もっと手前に来てもらって撮ってみましょう。風景の中に人物が埋没するのを防ぐことができます。（写真❹）

このとき、人物の位置を写真の中心から少しずらしてみると、構図が安定します。人物が右（左）を向いているときは画面の左（右）側に人物を置いてみます。

発表会や展示会の会場入り口の看板を入れて写真を撮るときも、看板よりも手前に立ってもらうと、人物を大きく撮れます。